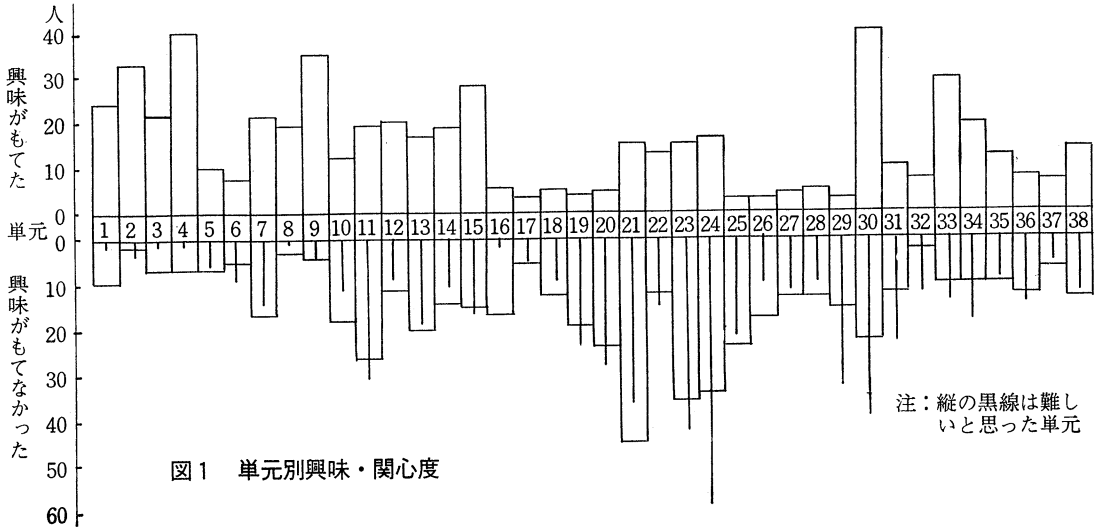


○ 分野別調査項目

- | | | | |
|--|--|---|--|
| <p>生物分野</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生物の観察 2. 動物の世界 3. 植物の世界 4. 生物の分類と進化 5. 生物の細胞 6. 細胞の活動 7. 動物のからだのしくみ 8. 植物のからだのしくみ 9. 生物の反応 | <p>地学分野</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 太陽と月 11. 地球や太陽の動き 12. 太陽のなかまの星 13. 大気の循環と気象 14. 流水のはたらきと地層 15. 地殻の変化 16. 自然界の調和 | <p>化学分野</p> <ol style="list-style-type: none"> 17. 物質と溶液 18. 物質の融点と沸点 19. 物質の密度 20. 化学変化とそのきまり 21. 原子・分子・変化の表し方 22. 物質の三態 23. イオンのモデル 24. イオン反応 25. 物質の構造 | <p>物理分野</p> <ol style="list-style-type: none"> 26. 力 27. 圧力 28. 仕事とエネルギー 29. 熱とエネルギー 30. 電気回路 31. 電気エネルギー 32. 電流と電子 33. 磁界 34. 電磁誘導 35. 運動とその記録 36. 運動と力 37. 光とエネルギー 38. エネルギーのうつり変わり |
|--|--|---|--|



の方策と考える。しかし実験が遊びとして終わらないように、目標の明確化と実験結果とを、効果的に結びつけるような配慮が必要である。このことを考えて、私は実験書を作成し、与えることにより、学習内容の定着を図ったのである。このような実験を通じて、生徒自らが問題を発見し、解決する喜

び、満足感、充実感が得られるよう心掛けた。また、実験においても、生徒の到達段階の違いを予測し、指導の個別化を図った。図2の指導の展開は、酸素の分子量測定実験で、指導の個別化、グループ化を図った指導案の一部である。

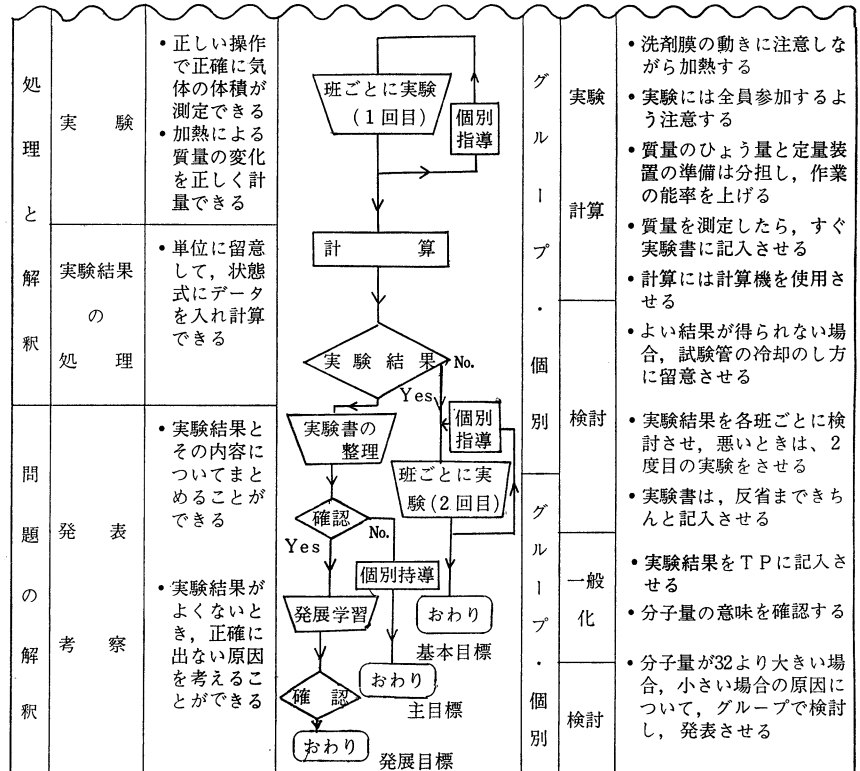


図2 酸素O₂の分子量測定－(指導展開の一部)